

## 審査の結果の要旨

氏名 福元真由美

本論文は、1920年代から1930年代における保育の協同主義（アソシエーションイズム）を形成した保育所と郊外住宅地の幼稚園の成立の経緯と実践の展開を事例に則して叙述し、都市化とともに登場した保育実践の特徴を考察している。これまで保育史の研究は、東京女子師範学校附属幼稚園を嚆矢とする幼稚園教育の制度的普及を扱った研究と、もう一方では都市スラムを中心に展開した保育の運動史という二つの系譜によって研究されてきた。本論文は、そのいずれにも属さない都市化を背景として保育の協同化を志向した保育実践の系譜に着目した独創的で斬新な研究である。

本論文は、都市スラム地域における協同主義（アソシエーションイズム）の保育実践の展開を叙述した第1部（第1章から第4章）と、郊外住宅地において協同のユートピアを掲げて成立した幼稚園の事例研究を叙述した第2部（第5章から第8章）、および、その二つの系譜を都市化という社会的文脈において特徴づけ考察した第3部（第9章）で構成されている。そして、第1章では賀川豊彦の光の園保育組合、第2章では志賀志那人の北市民館保育組合、第3章では帝国大学セツルメント託児部、第4章では平田のぶの子供の村保育園、第5章では橋詰良一の家なき幼稚園、第6章では成城幼稚園、第7章では高崎能樹の阿佐ヶ谷幼稚園、第8章では賀川豊彦の松沢幼稚園が事例として取り上げられ、精緻な資料調査にもとづく個性記述法による分析が行われている。上記のうち、第1章と第8章の賀川豊彦の光の園保育組合と松沢幼稚園の研究は本論文が最初の学術的研究であり、他の事例については、いずれも資料調査と資料の解読において先行研究の水準を凌駕している。

本論文は上記の事例研究によって、第一に母親の協同関係、自然や人間関係による保育実践の改革、オールタナティブな社会の構想を検討し、第二に郊外型幼稚園における自然や身体に関わる保育実践、新中間層の教育要求の特徴、郊外ユートピアの構想を考察し、第三に産業化と郊外化に集約される都市化によって形成された新しい保育の特徴を探究している。

本論文の最大の貢献は、都市化によって成立した保育の新たな展開を幼児教育と保育実践の歴史的構造の中心的な系譜の一つとして定位したところにある。もう一つの貢献は、都市化による保育実践を推進した二つの主要なモチーフとして協同主義（アソシエーションイズム）と郊外ユートピアの二つの思想を抽出し、それぞれの思想がどのような保育実践の新たな特質を形成し、またそれぞれの思想にもとづく実践がどのような痕跡を残したのかを詳述したところにある。これらの学術的貢献は、幼児教育と保育実践の歴史の見直しを迫り、現代の幼児教育と保育実践の改革にも資するところが大きい。

よって、本論文は、博士（教育学）の学位の水準に十分に達しているものと評価された。